

大学女性協会奈良支部主催

「ジェンダーギャップ解消のメリット、一緒に考えませんか？」(報告)

報告者 疋田洋子

奈良支部では、本年6月25日(日)なら男女共同参画週間イベント2023において「深読み“Global Gender Gap Index”～146か国中116位の意味を考えよう～」と題して、トーク・ディスカッションを行いました(話題提供者:中道貞子奈良支部長)。これを受けて、11月14日(火)13:30～15:30 奈良県女性センターにおいて、標記のタイトルで、以下に示す基調講演と2つの職場での取組紹介をハイブリッド形式で行いました。参加者は会場18名、オンライン9名でした。以下に、各登壇者のお話の概要を報告いたします。

講演 : ジェンダーギャップは少子化にも影響? ～女性を取り巻く現状と課題～

森田俊子さん 奈良県こども・女性局 女性活躍推進課長

取組紹介: 奈良女子大学における女性活躍支援の取組から見てきたこと

安田恵子さん 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター 特任教授

: 女性の目線で変化したホテルの取り組み

井場眞粧美さん ホテルアジュール・奈良 支配人

森田俊子さん: ジェンダーギャップは少子化にも影響? ～女性を取り巻く現状と課題～

人類社会のはじまりは男女に差別のない平等な社会であり、日本においても7～8世紀には女性天皇が、13世紀には北條政子の活躍があったことは史実としても残されています。女性にとって生きづらい社会に変化したのは鎌倉時代の末以降のことで女性の地位が急速に低下し、江戸時代、明治時代となるにつれ男性中心の社会になっていきました。

ジェンダーを取り巻く環境が改善されるようになったのは、国連において1967年女性差別撤廃宣言がおこなわれ、1975年国際女性年、その後国連女性の10年を経て、1979年女性差別撤廃条約、2010年ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの国連機関設立決議が行われました。それに合わせて我が国の法整備も行われてきました。が、実質は伴っているとはいえない状況です。2015年国連サミットで採択されたSDGsの5番目に「ジェンダー平等」があげられています。国際社会における日本の2023年のジェンダーギャップ指数は、146か国中125位で健康と教育では高いものの、政治、経済への参画においては極めて低いという結果です。経済の場合は男女の収入に差が大きいこと、管理職に女性が少ないことが、順位をさげる原因になっています。少しずつ改善はされているものの、我が国は、世界のスピードについていけておりません。

奈良県の女性を取り巻く現状をみると、自分の家庭の理想は、「夫が外で働き、妻が家を守る」ことだという固定的役割分担意識を持つ県民の割合が50.4%で全国1位、女性の家

事従事時間が 238 分で全国 1 位、一方、女性の就業率は 70、6%で最下位、1～5 歳人口比の保育所の割合は最下位で、結婚や子育てをめぐる現状を変えることが必要です。奈良県の男性は京阪神への通勤が多いため、全国 4 番目に通勤時間が長く、帰宅時刻も 19:00 で 15 番目に遅いという特徴があります。奈良県の人口の流入率を見ると男女とも 20 代における県外流出が大きく、県内大学入学率は 25.4%で全国 44 位、県外就職率は 27.3%で全国 3 位です。ジェンダーギャップが少子化に影響を与えていると思われま

す。少子化とジェンダーギャップについて奈良県でのこれからの施策について述べます。

奈良県に「こども・子育て推進本部」を立ち上げ、第 1 回本部会議を本年 7 月に開催しました。会議後、奈良県内のこどもやしごとに関わる関係機関、市町村、各種団体、関係者との意見交換、アンケートや各種調査から得られた課題を整理分類し、克服すべき課題を類型化し、取り組みの方向性を検討しています。

重点施策 1 として「女性の就労支援と男女ともに仕事と家庭・子育てを両立できる職場環境の整備」を設定しました。女性デジタル人材としてのスキルを身につけた女性を育成し、柔軟な働き方が可能で、生産性・賃金の高い働き先を提供するという就労支援の試みには、予定人数の 2 倍の応募がありました。重点施策 2 結婚や子育てに対する負担を解消し、暖かい社会の意識の醸成、重点施策 3 保育士の処遇改善、重点施策 4 困りごと相談の支援の取組、重点施策 5 こどもの医療費支援をあげ、取り組んでいます。

今後、(仮称)奈良県こどもまんなか未来戦略として令和 6 年度 6 月以降、本格的に始動できるよう予定を立てています。

安田恵子さん：奈良女子大学における女性活躍支援の取組から見てきたこと

—子育て支援の取り組みを中心に—

奈良女子大学には 2005 年に男女共同参画推進室ができ、2012 年には男女共同参画推進機構が学長直属の機構として設置されました。両立支援の取組には、①子育て支援システム ②教育研究支援員制度 ③ワークライフバランス支援員制度の 3 つがあります。

本日は①子育て支援システムを中心に話します。

訪問型子育て支援システム「ならっこネット」

奈良女子大学の職員数は約 300 人で規模が小さく学内保育園を作るには利用者数が見込めないことで運用が困難であること、研究職の場合、朝早く、または夜遅くなど保育園の時間外に必要性が出ることで多い特徴があるので、独自の支援システムを考えました。サポーターを一般公募し、大学が開発した訪問型子育て支援システムで、依頼・支援・管理をすることとしました。利用者の要望に応えられるようコーディネーターを置き、両者を結び付けています。①利用者が、『web ならっこ』から共助サポーター（登録後マッチングしたサポーター）に依頼する。②対応可能なサポーターが立候補する。③利用者が、担当サポーターを選ぶ。④当日担当サポーターが支援を行う。利用者は支援状況を PC で確認する。

①～④の各ステップを Web ならっこが管理し、滞った場合には本部スタッフが状況を確認し、支援をします。このシステムの特徴は、「○迅速性：24 時間以内の急な依頼にも対応。○信頼性：大学教職員の状況やこの事業の趣旨をよく理解した意欲的なサポーターによる支援。○安全性：Web ならっこが支援状況を管理し、不測の事態を迅速に把握。早朝・夜間・週末でも緊急時にはスタッフが電話サポート。支援中の関係者に対する保険は大学が加入し、個人の負担なし。」となっている点です。

支援の内容は、送迎または預かり（宿泊を伴わない）、その両方で、対象年齢は大学関係者の満 3 カ月～小学 6 年生までの子どもとなっていますが、希望者すれば、中学 3 年生まで可となっています。支援時間は 7：30～22：00 ですが、条件外の支援についても可能な限り対応します。預かり場所は 大学、利用者宅、サポーター宅などで、外出も可となっています。支援活動は有償で、平日 9～18 時（1 時間につき 700 円）+実費（交通費など）、それ以外の時間（早朝・夜間・土日祝日・大学休業日）は 1 時間につき 800 円です。

サポーターの対象者は地域の人々、学生、退職後の教職員などですが、サポーター養成講座で登録説明を受け、通常託児支援のための講習を 12 時間受ける必要があります。そのほか専門家による講義などフォローアップ講習会もあります。

利用者からは「ならっこネット」のおかげで「仕事が続けられた」「論文を書き上げ、学位が取れた」「大学のシステムなので安心」「大学敷地内なので安心」など感謝の言葉が寄せられています。この制度が軌道にのった頃、新聞や TV での紹介、大学や研究機関からの視察が続きました。

ならっこ病児・病後児保育支援システム

附属病院を持たない機関における「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築として、国立大学法人奈良女子大学が関西地区の大学、研究機関、企業の代表機関として 2019 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に応募し採択されました。奈良女子大学ダイバーシティ推進センターにおいてシステムを構築し、行政（奈良市）と奈良市医師会との連携のもと、WG に医療アドバイザーとして小児科医・看護師・保育士を、ダイバーシティ推進センターに実施責任者とダイバーシティコーディネーターを置き、訪問型病児・病後児保育システムのモデルができました。

このシステムは健康時に支援をしている専属サポーターが担当すること、通常託児支援講習（12h）に病児・病後児保育講習（10h）さらにフォローアップ講習を受け、支援知識の向上とスキルアップをするので、安心できること、かかりつけ医と保護者とサポーターの連携、看護師との緊急時電話対応が受けられること、本部スタッフによる時間外電話対応と駆けつけが行われることで安全であり、子供が慣れた自宅での保育、保護者に代わる家族のようなサポーターにより信頼関係の下での保育が可能であることは、病児、病後児にとって好ましい環境であるといえます。病後児保育は令和 3 年 4 月 10 日から試験運用を開始し、

令和5年4月から運用が開始されています。病児保育支援については令和5年5月から試験運用を開始いたしました。

今、このシステムは、附属病院を持たないケースのモデルとして位置づけられ、奈良県内、近隣の他府県間、さらに全国で、講習会の共有など連携しあい普及し始めています。

以上の子育て支援を含む女性活躍支援の取組により奈良女子大学における変化をみると、女性教員比率が令和5年度で41.5%となり上昇してきたことが認められました。しかし、上位職や管理職比率は、教授職30.1%、役員33.3%でまだ十分とはいえません。一方、女性の論文数は増え、科研費採択率は年々女性在籍比率を上回ってきているなど研究力が向上してきているといえます。しばらくは、全分野、全職位で50:50を目指したいところです。しかし、やがては女性に対する支援のみでなく、男性を含めた支援を考えていくことが必要だと考えます。

井場眞粧美さん：女性の目線で変化したホテルの取り組み

いま、奈良の経済を支えているのは観光業であると思っています。半分くらいは女性が活躍しています。しかし、結婚、出産でやめる人も多いです。今日は、県庁と大学での取り組みのお話を聞きましたが、ホテルの男性にも子育て支援に目を向けてほしいと思いました。私が勤めるホテルアジュールは25年前にできました。アジュールはギリシャ語で“癒し”“護る”という意味です。私が支配人になったのは、コロナが流行しだした頃でした。上は80代から下は10代まで、約30人ほどの女性と働いています。女性はいろいろな分野で働いています。私は、日ごろから女性は強いと感じています。ある時、40名のごはんを短い時間で提供しなければならなかったときに、みんなで協力しあって、みごとに間に合わせる事が出来ました。この時、私は女性の底力を感じました。

ホテルアジュールについてご紹介させていただきます。ホテルアジュールには、宿泊室39室、宴会場1室、レストラン1室があります。宿泊室には、色々なタイプの部屋があります。ファミリーにおすすめの「モダン和室」、広さが自慢の「アジュールツイン (28㎡、32㎡)」アジュールにしかない部屋として、メゾネット式のロイヤルスイートルームは、大人がゆっくりできる特別な部屋です。キャラクタールームの「にゃらまちルーム」には、ぬいぐるみの猫が沢山います。「鹿まる君ルーム」は、鹿まる君とクイズが楽しめる部屋です。

お客様にほっとしていただきたいとの思いから、生け花や折り紙を用意したり、お料理では四季折々に花懐石を考えたりしました。漢方、清酒発祥の地であることから、料理の話、漢方の話、お酒の話が出来るように、日々勉強を重ねています。

地域に密着した取り組みとしては、お土産は奈良の物を選ぶ、朝のアジュール散歩と称して、独自の散歩道を案内する、若草山や平城宮跡で流星群を観察する、奈良公園でフンコロガシやムササビを探すなどを取り入れています。

女性ならではの感性を大切に、アジュール独自の取り組みをと日々考えています。そしてパワフルに仕事をしていきたいと思っています。

実施後のアンケート結果

2023年11月14日(火)、大学女性協会奈良支部主催の「ジェンダーギャップ解消のメリット、一緒に考えませんか？」を実施しました。参加者は対面参加者18名、オンライン参加者9名、事後アンケートへの回答者は14名でした。以下にアンケート概要を報告します。

1. 回答者の年代

30歳未満(1) 30代(1) 40代(1) 50代(3) 60代(1) 70歳以上(7)

2. 大学女性協会の会員ですか はい(7) いいえ(7)

3. 今回の催しをどのようにして知りましたか。

案内チラシ(4) 大学女性協会のウェブサイト(3) 知人の紹介(5)
会員からの紹介(2)

4. 差し支えなければお住まいについてご記入ください。

奈良市(7) 奈良市以外の奈良県(4) 奈良県以外の近畿圏(1) その他(2)

5. イベントの内容はいかがでしたか？

とても興味深かった(11) やや興味深かった(3)

6. 5を選んだ理由を教えてください。

*三人の講師の方のそれぞれのお立場からのお話がとても興味深かったです。皆様の話から奈良県の特徴がよく出ていると思いました。

*講師それぞれのお立場でジェンダーギャップの問題についてご活躍、ご努力くださっていることがよくわかりました。

*行政、アカデミア、ビジネスと異なる分野で女性を支える話が聞けて、大変勉強になりました。

*奈良は市民サービスが全国最下位であり、典型的なイメージがあり、最初の話でもそれがでていた。

*男女別データ(家事従事時間、通勤時間など)が興味深かった。

*奈良女子大の取り組み「ならっこ」が非常に素晴らしいと思いました。アジュール、男女ともに成長していく姿勢が素晴らしいと思いました。

*身近な市内企業の取組がわかったので

*ジェンダー問題に関心をもっているから

6. 登壇者へのコメントがあれば、誰に対するコメントかを明確にしてお書きください。

*三人の登壇者がそれぞれの職場の実態や経験を話されたのがよかったと思います。

- * 奈良県庁や奈良女子大でジェンダーギャップ問題に具体的に色々と取り組んでおられることがよくわかりました。
- * 県のご講演では、一般的な話の内容に多くの時間が割かれていたが、具体的な奈良県の取り組みについて、焦点を当ててお話が聞きたかったと思いました。
- * 奈良女子大の取組みは興味深かったです。女性教員の比率が増えているのもうなづけます。
- * 奈良女子大学の子育て支援システムは素晴らしいですね。病児、病後の支援システムも医師会や看護師、保育士などとの関係を密にして取り組まれておられるのには感心しました。
日本でも企業や大学などのあらゆるところでも取り組まれたらもっと男女ともに安心して活躍できるのではと思います。
- * 3人の講師のお話は、とても鮮明に聞き取れましたが、最後の30分は全く理解できませんでした。
- * 奈良女の先生のお話は、子供の保育者を確保して女性の社会進出を推進しようとする努力と成果をすばらしいと思いますが、ボランティアに安い手当で子供を任せることには納得できません。それに応じるボランティアの資質を信頼できるのでしょうか？子供に適切な保育を望むなら、相応の報酬を保証すべきだと思います。彼女は自分たちの尊い仕事のために、最低賃金にも満たない手当でボランティアを利用することに違和感を覚えていらっしゃるのでしょうか？このようなしくみが、女性の地位向上に貢献できていると考えていらっしゃるのでしょうか？
- * ホテルアジュールの方のお話は、ホテルの宣伝としか思えませんでした。
- * ホテルアジュールの話は、職場に対する愛情がよく伝わってきましたが、ジェンダーギャップの少ない職場の具体的な働きやすさについてのお話がもう少しあればと思いました。

7. 今後、こんなイベントを実施してほしい等の希望があればお書きください。

- * 性暴力の防止の取り組みや被害者サポートの取り組みについて、勉強できる場面があるとよいと思います。
- * 女性経営者の講演